島根県公立小中学校
事務職員研究会
会　長　：　青　山　悦　子
（松江市立島根中学校）
編　集　：　情　報　部
VOL.60　2017.8.8（夏祭り号）
発行責任者　　蘿　恵（志学中学校）
島事研ホームページ
http://www.oh-net.com/~kenjiken/

爽

【　目　次　】

- 新たな時代の幕開けに寄せて（会長）
- 研究部・研究委員会の取組
- 島事研会則等の一部改正について
- 研修報告
- 川本町スクールサポートセンターの取組
- 人権コーナー
- まんが「フーちゃん」
- 編集後記

新たな時代の幕開けに寄せて

会長　　青山　悦子

今期，引き続き会長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。

「島事研ビジョン２０１５」「第五次研究中期計画」を策定してから３年目を迎えます。昨年度は，島事研にとって大きな変化（飛躍）の年でした。研究大会，セミナーには文部科学省から直々に参事官，参事官補佐をお迎えし，「チーム学校」をテーマとした講演をしていただきました。また，教育長，校長を巻き込んだ講演やグループワークは，会員の皆さんにとっても充実した研修の場となったのではないでしょうか。懸案であった課題（会費，組織の見直し）も一歩進めることができました。詳しくは吉賀副会長から報告します。アンケート調査など一緒に考えていただき本当にありがとうございました。しかし，数年先には再び課題が浮上するやも知れません。取り組むべきことは数多くありますが，会員の皆さんと共に研修し，解決していきたいと思っています。

また，今回の学校教育法改正により学校事務職員の職務規定が改正され，「事務に従事する」から「事務をつかさどる」となったことは，すでにご承知のことと思います。そしてそれが学校事務職員の念願であったこともご存知でしょうか。長い間先輩たちが処遇改善を要望してこられた経緯を思うと感慨深いものがあります。加えて「共同学校事務室」に関する規定が新設されました。学校教育法の改正に伴って施行規則も改正され，事務長や事務主任の職務規定についても改められました。島根県では全県で事務グループ活動が行われていますが，今後新しい制度はどのように取り入れられるのでしょうか。

特に若年化が進んでいる島根県においては，事務グループ活動が重要だと考えます。グループ内では事務リーダーが中心となって若い人を育てることはもちろん，校長の示す学校のビジョンや目標を具現化するため，各校の実態を把握し，分析し，これからの学校経営に必要な学校事務をマネジメントできる事務グループを目指していく必要があると思います。いずれにしても今後の変化に期待したいところです。

そこで問われるのが事務職員自体のあり方です。私たちを取り巻く環境（法律）は整いつつあります。しかし，いったい法令改正によって私たちはどんなアクションを起こしていけばよいのでしょうか。どんな学校事務職員を目指していけばよいのでしょうか。今年はそういったことも含めて議論し，「学びの質の向上につながる学校事務」を追求していきたいと考えています。

研究部・研究委員会の取組

研究部 部長　岡田 由美

平成２９年度を迎え，全事研岡山大会研究発表まであと約２年となりました。指導助言者を島根大学教職大学院の熊丸真太郎先生にお願いし，実践にあわせ，いよいよ本格的に研究のまとめに向かいます。今年度も「逆転発想マネジメントシート」や「あっとん@タグ」を活用しながら，テーマである『学びの質の向上につながる学校事務の展開』に迫りたいと考えています。また今年度は「前向きな世代交代を実現するロールモデルと次世代リーダーの確立」という視点をひとつプラスして，テーマに沿った活動を進めていきます。

■第五次研究中期計画テーマ

『学びの質の向上につながる学校事務の展開～教育活動へのより深い関わりをとおして～』

学びの質の向上につながる学校事務@子ども．未来．しまね

島根の未来を生きる子どもたちに，“学びの質の向上につながる学校事務”を展開・提供していきましょう!

■平成 29 年度研究部・研究委員会活動計画

○第五次研究中期計画を推進します。

中期計画と全国大会発表の活動をリンクさせることにより，研究計画の推進につなげます。

具体的には・・・

□第 1 回モニター地区意識調査の集計・分析

□マネジメントシートの改善（課題の取扱いに視点を置き，使いやすいよう小さな改善を加える）

□学びの質ワークショップ（研究部員が”学びの質”について掘り下げる）

□研究のまとめ（熊丸先生より指導助言を受けながら，これまでの実践を整理し，今後について検討する）

□第 2 回モニター地区意識調査の実施

□モニター地区との連携について活動まとめ

○第 48 回研究大会の研究発表地区との連携を図ります。

第五次研究中期計画と発表地区の実態に沿った研究がすすめられるよう，発表地区との密な連携を図ります。

（松江地区・益田地区）

○研究に係わる情報収集と発信を行います。

広報「爽」の”研究部コーナー”で，研究部活動の情報発信を行います。

■モニター地区連携具体的内容

「逆転発想マネジメントシート」「あっとん@タグ」の活用の依頼

今年度は特に**「前向きな世代交代を実現するロールモデルと次世代リーダーの確立」（仮称）を視点においた活用**についての検証をすすめます。

○具体的活用内容と方法（例）

ベテラン・次世代リーダーは

・自分が努力していること，努力する必要があることを取組として活用する。

・育成のノウハウ，経験の浅い職員へのアドバイス等を書き込んでいくことで活用をすすめる。

・若手育成について，また次世代のリーダー的な存在である事務職員と一緒にグループ活動等を充実させていくための取組について活用をする。

若手は

・自分が努力していること，努力する必要があることを書き込んでいくことで活用する。

・または先輩から受け継ぎたいことを書き込んでいくことで活用をする。

など意識的に前向きな世代交代を促進する。

さて，先日，役員会で今年度の研究の視点を取り入れた「ミニワークショップ～前向きな世代交代～」を試験的に行いました。その時の様子を簡単にお知らせします。ベテラン・次世代リーダー・若手という３つの世代に分かれて，グループワーク★スタートです。

①あなたは何を受け継ぎたいですか？何を引き継ぎたいですか？

◎若手が受け継ぎたいこと

実務に関すること
教職員への伝え方・教職員の動かし方
会議・会合の運営・持ち方のノウハウ
仕事場の風景・職場での立ち回り方
将来に対するビジョン

◎次世代リーダーが受け継ぎたいこと

つながり・仲間作りの手法

◎次世代リーダーが引き継ぎたいこと

先輩が築いてきた組織(事務Ｇや事務研等)をさらに整えたものにしたもの(業務の流れや責任の所在など)

◎ベテランが引き継ぎたいこと

研修の企画・運営（意欲・つながり・アンテナ）
校内での情報キャッチ
子どもを中心に据えた仕事のやり方・意識
もう一世代前の先輩の努力の賜
学校事務の理想型・すりあわせ・方向性

さらに「**②つまづきの原因と思うこと**」について意見を出し合った後・・・

③あなたの世代では何をすることができますか？何を思いますか？

◎若手

若手同士，魅力を伝え合う。（ベテランからもどんどん魅力を伝えてほしい）
若手にできそうなことは，先輩は早めに引き継いでほしい。

◎次世代

業務・意識の必要性を受け継ぎ，そのまま引き継ぐのではなく見直しをして引き継ぐ。
つなぐ役割を意識して，特に若手が話せるような雰囲気，場作りを心がけ，本当の意見交換ができるようにする。

◎ベテラン

魅力を伝える。
若手の直近のモデルを次世代リーダーに求め，ベテランは次世代リーダーを育てる。

３つのワークで世代別に話し合い，その後，全世代が集まり，意見のすりあわせ，共有の時間を持ちました。予想通りの意見もあれば，「こんなことを思っていたんだね」という驚きの気づきもあり，ほんの少しではありますが，分かり合えたこともあったのではないでしょうか？

７月に浜田市で時間をいただき，研究についてお話させていただいた時も，後半は，ワークショップ形式を取り入れました。「前向きな世代交代」に必要なもののひとつに世代間をまたいだ意思疎通があると思います。日頃の気づきや思いを「あっとん@タグ」にメモしておき，意思疎通を図るためのきっかけ（情報交換・意見交換・ワークショップ等々）として使っていただければと思います。

今年度の研究部員です♪よろしくお願いします。
◎部長　岡田由美（塩冶小）　〇副部長　兒玉和寛（横田中）　※副会長　勝部千恵（松江一中）
【部員】木戸清治（池田小）　佐伯圭一（横田小）　奥井洸介（遙堪小）　白瀬愛美（静間小）

島事研会則等の一部改正について

副会長
吉賀　孝則

会員の皆様には，島事研活動に対しご理解・ご協力をいただきありがとうございます。さて，標記の件について，各地区の代議員から報告済みとは思いますが，今年度から下記のように改正となりましたので確認の意味を込め，お知らせいたします。

【島根県公立小中学校事務職員研究会会則について】

改　正　前	改　正　後
（事業）第４条関係 （１）研究大会の開催	（１）研究大会及びセミナーの開催　**※注１**
（役員及び代議員の選出）第６条関係 （２）理事は各市郡より１名選出する。 （５）代議員は市郡より１名選出する。 （１０名を超えるごとに１名を加える。）	（２）に追記。 但し，隠岐地区においては島前・島後より各１名ずつ選出をする。 （５）各市郡より代議員を選出し，選出人数は別表１のとおりとする。　**※注２**

※注１　セミナーについて

１．開催年度について
　平成２８年度を初年度とし，原則，隔年で開催をします。但し，中国地区公立小中学校事務研究大会等，島根支部が主管する場合は，この限りではありません。

２．企画・運営について
　セミナーの企画は研修部が行い，企画に従い，役員会・研究部・情報部・各市郡理事で連携をして，準備・運営を行います。また，参加費を徴収して運営費等に充てます。

３．開催時期・場所について
　原則，開催時期は１月とし，開催場所は出雲市として計画をします。

※注２　別表１

事務職員数	代議員数
１～２０	1
２１～４０	2
４１～６０	3
６１～８０	4

◎代議員数については，毎年度の４月１日現在の事務職員数を基準とする。
　人事交流者は所属地のある市郡に含めるものとする。

【島根県公立小中学校事務職員研究会規則について】

改　正　前	改　正　後
（事業部の活動）第４条関係 （２）研修部　１）研究大会の企画	（２）研修部　１）研究大会及びセミナーの企画

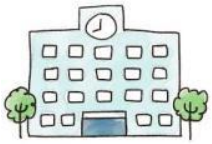
研修報告　NEW EDUCATION EXPO 2017 に参加して

江津市立津宮小学校　久保田　雅之

「プログラミング教育」と聞くと，「C 言語とか難しいことを教えるの？」，「プログラマーを育てるのか？」と言う声がしばしば聞かれるが，そうではない。今を生きる子どもたちが社会人になる 10 年後・20 年後の未来では，人工知能（AI）に出来ることは AI にさせる社会になっているだろう。その中で，大人になった子どもたちが社会を動かしている AI について，何も知らずにいることは致命的と言える。そのために，次期学習指導要領では義務教育の中で子どもにプログラミング教育を教え，例えば将来仕事をコンピュータに処理させる指示が出来る人材を育成しなければならない。20 年前の私たちも，まさか 20 年の間に，携帯電話が普及して，さらにスマートフォンがここまで社会を席巻するとは思わなかったはずだ。人々の生活が激変する時代に子どもたち，そして私たちが生きていることを認識しなければならない。

プログラミング教育を始めるに当たり，新たな教材の整備が学校事務職員の頭を悩ませると思う。もちろんプログラミングソフトなどのデジタル教材を整備することも重要だが，一方で ICT 機器を使わないプリントなどのアナログ教材も存在する。デジタル教材を活用した授業・プログラミング的思考を生かしたアナログ教材での授業の両輪でプログラミング教育を行う先進事例もある。ハード面だけに囚われず，ソフト面での教材整備も検討していく必要がある。

研修報告



教職員等中央研修
（第１回事務職員研修）

美郷町立邑智小学校　　石川　大介

６月 12 日(月)～６月 16 日(金)までの５日間，つくば市にある『教職員支援機構』（旧教員研修センター）に行ってきました。島根県からは私を含み４名の参加でした。全国から約１６０名，そして同時に行われていた『校長研修』では約１１０名の校長先生が来ておられました。したがって，この期間，約２７０名の研修者が，『教職員支援機構』にいたということになります。なぜ『校長研修』と同時に行われていたのか，それは，この度の学校教育法の一部改正によって『事務職員は事務を従事する』から『～事務をつかさどる』に変わったことが大きなポイントとなります。現在，大きな教育改革が進められ，その改革の１つに，学校組織運営改革があります。SSW や SC といった専門スタッフの配置，いわゆる『チーム学校』づくり。そして，学校のマネジメント機能の強化ということで，学校の事務体制を強化し，校長のリーダーシップを支える組織体制を強化することとあります。つまり，学校のマネジメント機能の強化という部分です。したがって，研修の初日と最後は校長先生と合同で研修するというプログラムになっていました。

さて，初日に，夕食を兼ねて，親睦会がありました。そうです，校長先生と事務職員，教職員支援機構スタッフの親睦会です。場所は食堂でした。わりと広い食堂なのですが，この時は，立食形式とはいえ，３００名近くいるので，人と人の間の窮屈さと，人の多さで圧倒されました。コップもテーブルに置いて話をしたら最後，自分のコップがどれか分からなくなるくらいです。県外の人と名刺交換をしたり，地酒をいただいたり，お菓子をいただいたりと大忙しの親睦会でした。お菓子や地酒の準備をしなくてはいけないルールはありませんが，都道府県によっては先輩たちからの申し送りとしてあるみたいです。来年度，中央研修に決定された方は，情報としてお知らせしておきます。私は噂という認識でしたので，何も用意せず行きました。…なので…もらうばかりでした（#^^#）

こうして，研修がスタートしました。学校経営を補佐する力，学校マネジメント強化ということで，財務マネジメント，カリキュラムマネジメント，リスクマネジメント，地域とともにある学校づくり，業務改善と教育委員会との連携，求められる事務職員像など濃い研修を受けました。全て報告したいところですが，膨大な量となりますので，１番印象に残ったこと，報告したいことをコンパクトにお伝えします。

それは，学校のマネジメント強化ということで，新たに何かしなければならないのか？と捉えがちですが，必ずしもそうではありませんでした。日々の中で，実は皆さん学校をマネジメントされています。そして，この島事研の中期計画も，研究大会の内容も，実はマネジメントにつながるものとなっています。つまり，学校のマネジメントを普段実践されているし，学ぶ機会，考える機会をもっているということです。

したがって，日々の中で，自分の学校をよくしていこう！学校環境をよくしていこう！子どもにとって，職員にとって，保護者にとって，地域にとっての環境をよくしていこう！と思う意識と改善意欲を持つことによって，私たち事務職員として何かできるか？どう改善できるか？につながります。

皆さん日々の中で，そう思いながら，自校で実践，共同実施で実践されていることと思います。まずはその意識が１番なんです。私は改めてそのことを考えさせられました。 最後に，中央研修で一緒のグループになった方と今でも連絡をとっているのですが，そのなかで，そうだな！と妙に納得してしまった言葉があります。それは，「学校マネジメントより，まずは体調マネジメント，気持ちマネジメントだね！」です(*^^*)

川本町　スクールサポートセンターの取組

川本町には，小学校が1校，中学校が１校あります。平成23年度より事務グループ活動の充実のための加配を受け，事務職員３名という県下でも最小の事務グループで活動しています。川本町の特長は，教育委員会と事務グループ，教頭会というメンバーでスクールサポートセンターを組織し取組を行っていることです。

〈今年度の目標〉

○学校と教育委員会が連携・協働し，教育環境の整備や教育活動の支援に取り組むことにより，学校教育の更なる充実を図る。
○町内２校の学校事務の標準化，共有化，適正化，効率化に組織として取り組み，学校運営組織の活性化を図る。

〈具体的な取組〉

○安全・安心な教育環境

●施設・設備の安全管理
*リース契約・保守点検一覧表整備，設備更新の協議
*施設・設備の修繕要望箇所の現場視察と改善策協議
*児童・生徒目線の施設改善（「学校のことアンケート」の実施）
*学校施設マニュアルの整備（「施設マップ」充実）
●防災体制の整備
*災害発生時の初動体制の共通理解とマニュアル整備
*避難所としての学校施設
（必要となる機能の確認・整備）
*避難所としての対応（業務内容の整理・役割分担）

○学校と保護者・地域を結ぶ情報発信

●ホームページの充実
*定期更新（学校だより，トピックス，行事予定表，献立表）
*「就学援助制度」等の内容改善
●メール配信システムの活用推進

○学校事務職員の資質向上

●小中県費事務等の点検
●実務研修・研修報告会の実施
（事務グループ会）
●初任者研修
●「事務だより」の発行

○効率的・効果的な事務処理体制

●効率的・効果的な財務管理
*小中財務処理，備品購入手続きの一括処理
*予算執行に関する情報共有と共通理解
●公費外会計の適正な管理
*学校集金の収納状況の情報共有と対応協議
*公費外会計の取扱要領案に沿った試行と検証
●ICTを活用した校務の効率化
*収受文書のデータ管理
*校内サーバー，共有サーバーの整理・活用　（年度切替更新，事務処理マニュアル作成）
*システム改良・活用支援　（指導要録，特殊勤務記録簿，マイクロバス申請，賞状記入等）
*ICT環境の整備　（校務用PCアップデート，校内ネットワーク環境の改善）

川本町では学校と教育委員会が連携・協働し，教育環境の整備や教育活動の支援に取り組んでいます。その中で，すべての活動の要となる「学校と教育委員会の連携と協働」に焦点を当てて紹介します。

学校と教育委員会の連携と協働

施設・設備の現地視察

川本町の小中学校の校舎は，いずれも築３８年を経過し老朽化が進んでいます。

毎年，SSC(スクールサポートセンター)担当者会で予算要望のヒアリングを行っており，施設設備の改善要望リストを資料に情報共有していますが，昨年度から，実際に目で視て触って，現場の状態を評価してもらうことにしました。

教育委員会から課長・課長補佐・担当者の３名が，学校側は教頭・事務職員が説明をしながら，校地・校舎をまわり，屋根や手すり，遊具などの腐蝕レベルや，壁面や床板の劣化具合などを点検しました。

学校と教育委員会が連携し，学校施設の状態面・機能面を把握・評価することで，中・長期的な改善計画を立てるというのがこの視察の目的ですが，現場を回りながら話をすると，それぞれの知識や経験からいろいろな改善策が出てきて，学校施設の維持・管理には，学校と教育委員会の両者が主体的に関わりチームで取り組むことの効果を改めて感じました。

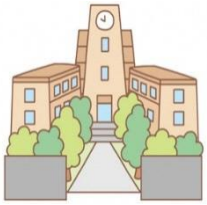
子どもたちの声を予算要求に反映

毎年，小学校の３年生以上と中学生を対象とした「学校のことアンケート」を実施しています。

子どもたちの視点で学校施設や通学路などの危険箇所や困っていることなどを調査し，集約したものを SSC 担当者会で情報共有し，環境整備や予算要望に繋げています。

川本中では，トイレの洋式化の要望が多かったため，教育委員会と協議し，より詳しいアンケートを実施して資料を作り，予算要望の重点項目にあげました。その結果，28～29 年度の２カ年計画で，全てのトイレに１ヶ所ずつ洋式トイレを整備することになりました。

今年度も，６月に「学校のことアンケート」を実施しました。子どもたちが学校生活を送る中での小さな困り感にも目を向け，教育環境の改善に取り組んでいます。



校外学習のマイクロバス使用

川本町では，町所有の公用車やマイクロバスを校外学習や部活動遠征に使用することができます。

バスを使用する場合は，10 日前までに教育委員会に連絡しなくてはなりません。他の団体と使用日が重なったり，天候等による急な行程変更などをお願いしたりすることもありますが，教育委員会の迅速な時間調整・連絡により，学校教育活動のスムーズな実施が実現しています。

旧役場庁舎の備品移転

一昨年度，川本町の役場庁舎の移転に伴い，旧庁舎に残っている備品で必要な物を小中学校に保管転換することができました。

小中学校ともに，スチール机や書庫などの大型備品の希望が多く，２台のトラックで４往復という移転計画となりました。年度末の人事異動時期，学校職員だけでは人員不足でしたが，教育委員会各課より計４名の職員が運搬作業に協力してくださり，短時間で効率よく移転作業を終えることができました。

川本町では，小さいながらも多くの人が「子どもたちのためですから」と，ともに知恵を絞って考えたり，動いたりしていただいています。このチームワークを大切に，これからも周囲の協力を得ながら，連携の輪をひろげ取り組んでいきたいと思います。

人権コーナー

「ご案内」

津和野町立津和野中学校
渡邉　博文

ー優れた実践はたしかな出会いからはじまる。

優れた実践は感動がある。優れた実践は人間を変革させるー

昨年，第 13 回島根県人権教育研究大会が益田市・グラントワで開催され，大田市の小学校事務職員の実践レポート「みんなで進路保障」にふれることができました。子どもたちの就学を保障するため，事務職員が中心となり全教職員で取り組んできたことの実践事例を具体的にあげながらの報告でした。教職員と保護者，地域が一緒になり，一人一人の子どもの学びを保障していくことにどう寄り添っていくのか，まさに「人権としての教育」であり，進路保障の理念に通じる報告であったと思います。優れた教職員集団であり，優しさにあふれる地域なのだろうなと感じています。

そしてこのレポートは，今年，２０１７年１２月２日（土）と３日（日）に「くにびきメッセ」を全体会場に，松江市・出雲市にて開催される，第 69 回全国人権・同和教育研究大会の進路・学力保障の分科会で報告されます。ぜひみなさんも参加され，全国各地から１万人を超す参加者とともに，持ち寄られる事実と実践にふれ，たしかな出会いと交流を深められることを熱望します。

「優しいひと」とは，憂いにそっと寄り添える人。

それを「優れたひと」という。

私たちは「優れた学校事務職員」をめざして！

原作：千葉ひろみ　　画：大橋幸子

【編集後記】私の職場では今年度初めから運動部が発足しました。運動部といっても体力増進，運動不足解消のため「校庭を１０分間歩く」というゆる～いものです。部員は５～６名。春休みには勤務時間が終わるといそいそと校庭に出て桜を眺めながら気持ちよく歩きました。今現在の活動状況は？というと…。そんなことしてたよね～とすっかり休部状態。たかが１０分，されど１０分…。時間を作り出すのも自分の気持ち次第。夏休みには思い腰を上げ活動再開して，体も心も健康で２学期を迎えたいと思っています。（Y･S）